

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福祉会		
事業所名	紀三井寺苑	【ユニット名:】	グループホーム I 号館
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気作りと利用者とのコミュニケーションを大事にし、その人らしく暮らして頂けるよう職員一人ひとりが利用者の思いや気持ちを表せるよう支援しています。又、利用者、家族様にとって居心地の良い環境作りにも努めています。自分でできることはして頂くように取り組み、機能低下を防ぐよう努めています。その人に合った買い物、散歩、外食、お茶会、ドライブなどで気分転換を図って頂けるように支援を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JijyosyoCd=3070101518-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成26年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が運営する特別養護老人ホームに併設され I 号館の隣に II 号館が昨年4月に完成して入居者も増えている。夏祭りや秋祭りには法人全体で取り組み、たくさんの地域の住民が参加して、毎年盛大に開催される。また季節に応じた独自のイベントも開催している。地域の保育所の運動会には毎年参加して家族との交流も毎年おこなわれている。その人らしい生活を目指し、個々の能力を引き出せるように、日タリーダーを含め職員間で研鑽に努めている。入居者が気分転換を図るための外出の機会も多く持てるよう取り組み、自由に選択できるような支援を行っている。食事に関しても、その人の好みにも配慮して、入居者、職員と一緒に楽しく、明るい食事の場づくりに取り組む姿勢がみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者のケアについては、理念に基づき話し合いを行っている。又、毎月目標を決め、実践に繋げている。毎朝の申し送りで唱和している。	グループホーム独自の理念を玄関の見えるところに掲げ、毎月の目標と共に朝のミーティング時、職員間で確認、その人らしさや自立支援を大切に、日々のケアに生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域も保育所の運動会に参加しています。事業所主催のふれあい教室、夏祭り等に参加される地域の方との交流に積極的に取り組んでいます。秋祭りには、獅子舞を見せにきてくれている。	毎年、地域の保育所の運動会への参加依頼がある。法人主催のふれあい教室などは、地域にチラシを配布して、たくさんの参加を集め、地域の住民の交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や家族様にデイサービスでの介護教室参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域包括支援センターの職員や家族、民生委員と意見交換し、出された要望をサービス向上に繋げている。	II号館が出来たことで参加してもらいやすくなっている。会議では地域包括支援センター、民生委員、家族を中心に活発に意見交換が行われ、出された意見や要望を今後のサービス向上につなげている。	他の地域の人の参加や、なかなか来てもらえない市の担当者にも声をかけて参加してもらえるような働きかけを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者ととの情報交換は運営推進会議に留まっている。	毎回運営推進会議の参加依頼は出すが、参加には至っていない。市町村に出向く機会も申請や更新申請の事務的な要件で、相談する機会は殆んど持っていない。	事業所の実情を相談出来るような関係作りを普段から持てるような働きかけに期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は鍵をかけずセンサーを設置し安全確保している。言葉の拘束にも気をつけて職員間で注意し合っている。	日中は玄関に鍵をかけないで、その人らしい生活を続けられるよう個別に対応して、不安をなくすような、声かけを行っている。安全確保のためのセンサー等を設置して、自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止に努めている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：I号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が成年後見制度を利用しています。家族様には必要に応じ制度がある事を説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に説明を行い、契約時には再度説明し、家族様の要望等詳しく伺っています。また、事業所のケアに関する取り組みや考え方を説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会と運営推進会議を一緒にする事で参加者も増え意見も出やすくなった。又、増床により参加者も増え活気も見られるようになる。	運営推進会議、家族会議と、家族からの意見や要望が多く出るような環境づくりに取り組み、2か月に1回、便りを発行してホームでの様子や行事等を家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見を聞くと共に個別に要望や悩みを聞いている。	職員の現場での意見等は個々に話を聞く雰囲気づくりを心掛けている。運営について会議の席で管理者、職員間で話し合い、毎日のケアに結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課にて実績の評価を行い、自由記述にて条件の整備につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ドクター・看護師を交えた医療に関する勉強会を月1回行い、法人の勉強会、ミーティングでの勉強会を月1回行っている。多くの職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を持つように努めている。同法人の相互訪問活動を通じ、質の向上に取り組んでいる。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：I号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接で本人の生活状態を把握し、家族様にも協力して頂き、年代別背景や好きな物・嫌いな物シートを記入して頂き、本人が不安なく過ごせるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に困っている事や不安な事、要望等を面会時には聞くようにし、関係作りに努めている。コミュニケーションを大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様の思いを確認しながら、状況に応じた支援を行っている。場合によっては他のサービスの利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ役割分担をして頂きながら、24時間共同生活を営んでいる。大家族のように過ごし、利用者、職員支えあいながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人の様子を伝え、家族様の意向を聴きながら、家族様協力のもと本人を支える支援に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外にも知人や近所の方が訪ねて来ている。又、本人の希望を家族様に伝え関係が途切れないよう支援している。外出時には馴染みの場所に訪問するようにしている。	今までのつながりを途切れないように、本人の希望を家族に伝え、なじみの店での買い物や自宅で過ごすこと等に繋げている。また友達の訪問を受けたり、こちらから訪問したりすることにも個別に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を見据えた上で利用者同士が上手に関わりあえるように支援している。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：I号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、面会に尋ねたり電話等で様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向は、日々の関わりの中で本人に問いかけたり、うまく伝えられない方には、その時々表情や言動から推し量り把握に努めている。入居者の言葉は生活シートに記入し職員間で共有している。	職員の日々のかかわりの中で入居者一人ひとりに担当を決めている。本人の思いを表情からくみ取る努力をしており、個々の入居者の様子は、生活シートを使い職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方については、家族様に予めシートに記入して頂き、本人からは聞き取ったり少しでも多く把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活を1日の流れの中で捉え、心理面の視点や、本人の出来る事・分る事に注目して、その人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らせるよう、本人・家族様の思いや意向を踏まえて話し合い、介護計画を作成している。今、その人に何が必要か職員間で検討している。	24時間シートを活用し個別に対応し、また家族から生活歴を聴き取り、アセスメントして計画書を作成している。また、毎月入居者3名ずつ会議でモニタリングして計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者それぞれについて、生活の様子や排泄状況心身の状況等記録し、職員間で情報を共有し、見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、特変時でも訪問診療や訪問看護を利用しながら、できる限り本人や家族様の望む生活を継続していけるように支援している。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：I号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、教育機関や地域のボランティアのどと協力しながら、安全で豊かな暮らしが送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族様の希望によりかかりつけ医を選んで頂いている。かかりつけ医とは連絡を取り合い関係作りを行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	基本的には本人、家族の希望するかかりつけ医となっていて、主治医との連携も図っている。緊急時の場合のみ通院介助しており、その都度家族には連絡している。月2回の協力医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師や訪問看護師と気軽に相談しながら、日々の健康管理や状態変化に応じた対応を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、利用者ができるだけ安心して過ごせるよう、又できるだけ早期に退院できるように、病院関係者、家族様と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人、家族様、主治医、看護師と早い段階から話し合いを行っている。グループホームでできる医療的処置の範囲を伝え、重度化した場合には系列の特別養護老人ホームの入所支援も行っている。	看とりに関しては、将来に向けてスタッフで話し合っている、重度化した場合、併設の特別養護老人ホーム入所の支援も行っている。緊急の容態変化については協力医療機関の医師や看護師と連携を取りながら、家族の意向を聞きながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に他部署合同で訓練を行っている。又、看護師、ドクターを交えた勉強会も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、避難訓練講習会を設けている。職員には、災害時の役割分担を決めている。	避難訓練は年2回法人全体で行っており、災害時には隣の法人施設は地域住民の避難場所になっている。災害時の対応については運営推進会議で家族にも常に説明している。	減災の為にグループホーム独自の避難訓練を行ったり、地域住民の協力のもと、避難訓練が実施できるように地域に働きかける事を期待する。

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：I号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を見極め、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに留意した声かけや対応に努めている。	入居者の生活歴等にも配慮しながら、個々の人格を尊重し、声かけには十分注意を払っている。共同生活であるホームでの暮らしを支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ選択日や喫茶日を設け好きな物を選ぶように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、希望や要望に耳を傾けた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容師の訪問がある。希望の利用者は好みの髪型に切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の希望を聞きながら職員が考えている。利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。	メニューは何種類かの中から選択してもらう。食事は職員と一緒に食べ、介助が必要な人でも、なるべく自分で食べることが出来るように支援している。それぞれ役割を持ち、後片付けも自ら自主的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量や食事は把握している。栄養バランスには気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけ、ポリデント洗浄のケアを行っている。		

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：I号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、負担にならないように誘導、声かけを行っている。個々のチェック表を把握している。	生活シートと排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した声かけで、トイレに誘導している。そのため、おむつを使用している人は少なく、気持ちよく排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、便秘予防に水分強化やヨーグルト、散歩等の支援を行っている。家族様も協力的です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の希望やタイミングに合わせた支援を行っている。	個々希望の時間に合わせて、入浴できるように配慮している。入浴を拒む場合は時間差をつけ声かけするなど、その人に合った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの状態に応じ生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬内容を付け、薬の目的や副作用を提示し職員全員が把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな人には手伝って頂いたり、日々の生活を楽しんで頂く為に、希望者には買い物、ドライブ、カラオケなどの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、買い物、散歩等日常的に外出できるように支援している。家族様の協力です。外泊、外出している。	希望者には月1回の外出や、ミュージカル、カラオケ等と外出する機会を設けている。また個別の買い物や外出の支援もおこなう。家族の協力です。外出や帰宅に繋げている。	

【事業所名】紀三井寺苑グループホーム【ユニット名：I号館】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれている方には、要望があれば買い物に行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話できるように支援している。手紙が届く利用者もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ダイニングなど季節感を取り入れて、見て喜んで頂ける空間作りを工夫している。又、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるように配慮している。	天井が高く、明かり取りの窓に、柔らかい光が、差し込み開放的な空間になっている。季節感を感じてもらうために、その四季に合った飾り付けで生活感のある毎日を送れるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思い過ごせるような居場所作りの工夫は随時行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好きな物や落ち着くものなどを置き、居心地の良い空間をつくれるように工夫しています。	居室はゆったりとした空間で、家族にも協力してもらい、本人の使いなれた、なじみの家具や写真、自分で作成した作品などで配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの利用者のできる事、わかる事を活かし自立できるように工夫している。		